



2020/02/04



2020/02/04

本堂客殿建設進捗状況

吉田社寺建設の寿楽院本堂建設資材刻み作業中と基礎工事現場



2020/02/04



十三仏の事典

二・七日忌の釈迦如来

仏さまのなかで、釈迦如来（お釈迦さま）は歴史上実在の方であり、しかも仏教を開かれた方であります。

今から約二千五百年ほど昔、北インドのカピラ国（現在ネパール）に生れ（四月八日、花まつり）、小種族の王子でしたが、二十九歳のとき出家し、六年間の修行の後、三十五歳で悟りを開かれ（十二月八日、成道会）、それから四十五年間法を説き、多くの信者を育て、八十歳にて入滅（二月十五日、涅槃会）されました。

亡き人は、お釈迦さまに初七日から二・七日までの七日間のお導きをいただきます。お釈迦さまは歴史上の人物ですが、ここでは如来となったお釈迦さまということになります。それにしても、仏教の開祖となったお釈迦さまです。亡き人は仏教の基本となる教えについて導かれていくこととなります。お釈迦



さまの教えの基本は、三法印・四諦・八正道にあると言われています。三法印とは、次の三つのことを意味しています。一、すべてはうつりゆくものである（諸行無常）。二、固定的な実体がある

のではなく、すべて因（原因）と縁（条件）によってあるのである（諸法無我）。三、迷いから悟りの境地に入れば、静かな安らぎになる（涅槃寂靜）ということをとられたのです。

お釈迦様は最初の説法（初転法輪）のときに、四諦の教えを述べられたと言われています。一、苦諦・迷いとは苦しみであるという真理です。二、集諦・苦しみの原因はあくなき欲望にあるという真理です。三、滅諦・欲望が絶ち切れたときには、苦から逃れることができるという真理です。四、道諦・苦を滅するためには、八正道によらなければなりませんという真理です。一、正見、二、正思、三、正語、四、正業、五、正命（正しい生活）、六、正精進、七、正念、八、正定（正しい精神統一）、私たちは、亡き人

手を合わせ祈るたびに、せめてこの三法印・四諦・八正道の事を思い出し、学ぶことによって、亡き人との心の交流が深まっていくこととなります。